

しもべとしてのキリスト者

ルカによる福音書一七章一〜10節

あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、「私どもは役に立たない僕です。すべきことをしたにすぎません」と言いなさい。(10)

主イエスが求められたのは、主の僕になりきる信仰です。この「僕」という言葉は奴隷という意味です。奴隷は主人の所有物ですから、主人に命じられた通り
のことは行っても決して誇るなどありません。やるべき当然の働きをしてい
るに過ぎないのです。私たちが「イエスは主である」との信仰を告白するとき、
それは「わたしは主の僕です」と言い表すことです。キリスト者になるとい
うことは、それまでの自分が人生の主人であることをやめ、キリストを主人とし、自
らをその僕として生きることです。喜びと感謝をもって主に仕えて生きること
です。なぜ、キリストの僕に徹して生きることが出来るのか。それは主人であるキ
リストがこの私たちのために自ら僕となり、その命をかけてくださったからです。
その感謝に溢れた者たちが、心からの喜びをもって主の僕として生きるので